令和7年度（2025年度） 日本医療科学大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム自己点検・評価について

プログラムの自己点検・評価を行う体制 自己点検・評価体制における意見等	データサイエンスAI教育委員会

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	令和7年度における本プログラム（1学年対象）の履修者数は53名、修得者は50名であり、入学定員に対する修得率は限定的な状況にある。本プログラムは、1年次必修科目「情報リテラシー」を基盤としつつ、選択科目「医療保健統計学」により構成しているため、現時点では履修者が一部にとどまっている。 しかしながら、本プログラムは全学生を対象としたデータサイエンス・AIリテラシーの修得を目的としており、履修者の拡大に向けた改善を進めている。具体的には、各学科・専攻ガイダンスにおける周知、ポスター掲示等による広報の強化、履修しやすい時間割編成などの取組を計画している。これらの取組により、全学生への履修拡大を図るとともに、本プログラムの実質的な全学展開を推進する。
	学修成果	本プログラムを通じ、学生はデータサイエンスの基礎概念や分析手法を理解し、データから現象の背景や傾向を読み取り、科学的根拠に基づく判断力を身につけている。また、医療保健分野における具体的な事例やAI活用例、課題について学ぶことで、データに基づく社会・医療課題の理解や評価力が養われ、今後の予測・解析への応用可能性についても理解を深めている。 これらの学修成果は、各科目における試験、レポート、課題演習、プレゼンテーション等により評価している。加えて、学生アンケートからは、受講前は統計への苦手意識があった学生も、数字やグラフの意味を考える面白さを実感し、興味・意欲が向上したことが示されている。これらの評価結果やアンケート結果はデータサイエンスAI委員会で共有することで、教育内容および指導方法の改善に反映させている。 以上のことから、本プログラムはデータサイエンス・AIの基礎的素養を持つ人材の育成に資するものであると評価できる。
	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生アンケートの結果から、「情報リテラシー」は84.4%、「医療保健統計学」は97.8%の学生が内容を理解できたと回答しており、本プログラムにおける基礎的な理解度の向上が確認されている。 また、AI関連項目については88.9%、統計の基礎知識については86.7%の学生が理解できたと回答しており、データサイエンス・AIに関する基礎的素養の修得が概ね達成されている。一方で、推定・検定や相関・回帰などの統計解析に関する理解度は相対的に低い傾向が見られ、今後の理解度向上が課題である。これらの結果については、データサイエンスAI教育委員会で共有し、授業内容や指導方法の見直しに反映させることで、理解度の向上に向けた継続的な改善を図っている。 なお、プログラム全体の満足度については97.7%の学生が満足と回答しており、教育内容に対する評価も高い水準にある。以上より、本プログラムは学修目標の達成に概ね寄与しているものと評価できる。
	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムの受講を他の学生に推奨したいと回答した学生は88.9%にのぼり、高い推奨度が確認されている。その理由として、「どの職種でもデータを読み取る能力が必要であると感じた」「医療統計を体系的に学ぶことができた」「将来的に役立つ内容である」「講義の進め方や説明がわかりやすい」「統計の基本的な解析手法を学び、数字を扱う面白さを実感した」などが挙げられた。これらの結果から、学生は本プログラムを通じてデータサイエンス・AIに関する基礎的理解を深め、その有用性を実感していることが示されており、学修成果と推奨度との間に一定の関連が認められる。 以上より、本プログラムは学生から高い評価を得ており、他の学生への推奨度も高い教育内容であると評価できる。
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは全学生を対象としているが、現時点では選択科目「医療保健統計学」の履修状況により、履修率は限定的な状況にある。この課題に対し、履修者数および履修率の向上を目的として、以下の取組を実施する。 ・各学科・専攻ガイダンスにおいて、医療職におけるデータ活用および統計知識の重要性を説明するとともに、履修者のアンケート結果を引用して履修の必要性を周知する ・ポスター掲示やオリエンテーション等を通じた周知の強化を図る ・時間割の工夫により履修しやすい環境を整備する これらの取組については、令和8年度に向けて順次実施しており、履修環境の改善および学生への周知強化を進めている。今後は、これらの取組の効果について、データサイエンス委員会において履修状況等のデータを分析し、その結果を踏まえてさらなる改善策を検討することで、履修率の向上および実質的な全学展開を推進する。
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和7年度入学者から設置されたものであり、現時点では修了者は卒業していない。今後は、卒業生に対するアンケート調査や就職先へのヒアリング等を通じて、本プログラムで修得した知識・技能の活用状況や評価について把握する予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学学生の主な就職先は医療機関であり、教育プログラムに対する体系的な外部評価を直接的に得ることは容易ではないが、臨地実習指導者や医療現場の専門職との意見交換を通じて、医療現場におけるデータ活用やAIの必要性についての知見を収集している。 今後は、医療業界におけるデータサイエンス・AI教育の動向や関連ガイドライン等を踏まえ、プログラム修了者の卒業後の調査および就職先からの意見収集を通じて、教育内容・手法の改善に継続的に反映させていく予定である。
数理・データサイエンス・ＡＩを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		本プログラムを通じ、学生は医療保健統計学、AI活用の具体的事例、Excel演習、グラフ作成等の学修を通して、データの背景や傾向を読み取り、現実の医療・社会課題と結びつけて理解することの楽しさや、統計・データ分析の面白さを実感し、学ぶことの意義を理解している。また、学んだ内容を基にデータに基づく判断や説明が可能となるなど、客観的に分析する力が向上している。 学生アンケートにおいては、「学んだ内容が将来に役立つ」と回答した学生が91.1%にのぼり、データに基づく判断力や客観的分析力、AI活用および情報倫理に関する理解など、医療職に必要な基礎的素養の修得が確認されている。これらの結果は、試験やレポート等による評価結果と併せて分析し、教育内容の改善に活用していく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		学生アンケートおよび学修成果の分析から、授業内容の理解度は概ね高い水準にある一方で、推定・検定や相関・回帰などの一部統計解析手法については理解度が相対的に低い傾向が見られ、応用的な理解を深めるための演習の充実が課題である。 このため、具体的な医療データを用いたケーススタディの導入や、基礎から応用へと段階的に理解を深める演習設計を強化することで、学生にとってより分かりやすい授業の実現を図る。また、生成AIや医療情報技術の進展に伴うデータサイエンス・AIの利活用については、最新の事例を適宜授業に取り入れ、内容の更新を継続的に行っている。 これらの取組については、学生アンケートや成績データ等を分析し、その結果を踏まえて授業内容および指導方法の見直しに反映させることで、教育の質の維持・向上と学修効果の最大化を図っていく。